

第60回 医学教育セミナーとワークショップ in 東京医大

開催要項・参加者募集

医学教育開発研究センターは、新しい医学教育の開発と普及を目的とした“医学教育セミナーとワークショップ”を毎年4回開催し、全国から多くのご参加をいただいております。

第60回医学教育セミナーとワークショップは、東京医科大学と共同開催いたします。奮ってご参加ください。
東京医科大学医学教育学 泉 美貴
岐阜大学医学教育開発研究センター 藤崎和彦

2016年5月21日(土)・22日(日) 東京医科大学病院 教育研究棟 (自主自学館)

- 2016
春
- WS-1: 医学教育で使えるeラーニング教材を作る! 共有する! 活用する! -日本版 MedEdPORTAL の構築を目指して- T/L
 - WS-2: 学外臨床実習の充実に向けて CD
 - WS-3: 医学教育における教学IRの理論と実践
~分野別認証評価とその先を見据えて R
 - WS-4: 文化的差異への対応
-語学・文化人類学の観点からネイティブ英語SPを活用した実践の可能性 T/L
 - WS-5: シミュレーション Scenario (シミュレーションを導入した授業案・指導案) をブラッシュアップしよう! T/L
 - WS-6: 医学教育分野別認証評価における自己評価の書き方を学ぶ M/L
 - WS-7: 性的マイノリティ患者に適切な医療を提供するために医療系学生が学ぶべきことを考える CD
 - パネルディスカッション: 共感する能力は教育できるか? T/L
 - セミナー: ICTを活用した医学教育の未来構造 -さらなる高みへ- T/L

記号 (T/L 等) は、フェローシップ、アソシエイト認定のための学習領域を表しています。
詳細はパンフレット、MEDCホームページ「[アソシエイト・フェローシップのご案内](#)」をご覧ください。

		プログラム					
21日 (土)	午後	WS-1	WS-2	WS-3	WS-4	WS-5	
	夕	来賓祝辞 セミナー					
	夜	懇親会					
22日 (日)	午前	WS-1	WS-2	WS-6	WS-7	WS-5	パネル ディスカッション

WS-1 : 医学教育で使えるeラーニング教材を作る！共有する！活用する！

－日本版 MedEdPORTAL の構築を目指して－

企画： 日本医学教育学会 広報・情報基盤開発委員会（椎橋実智男 R.ブルーヘルマンズ 菅沼太陽 臼井いづみ 鶴田 潤 丹羽雅之）

日時： 5月21日（土）13:00-17:00、22日（日）9:00-13:00

T/L

概要： 日本医学教育学会の広報・情報基盤開発委員会は、医学教育で使えるeラーニング教材のあり方を検討しています。eラーニング教材において最も重要なことは「それを使って学習できる」ことであり、そのためには良い教材が作成され、共有され、広く活用されなければなりません。当委員会では、まずMoodleとXerte（ザーティー）のサーバーを構築し、誰でも比較的簡単に教材を作成し共有できる環境を整備して、これらを使った教材開発のワークショップを2回開催しました。次のステップとして、eラーニング教材を国内で共有し、活用するための仕組みとコミュニティを作っていきたいと考えています。医学教育にeラーニングを活用しようとしている皆さま、私たちと一緒に教材作りを体験し、「日本版MedEdPORTAL」の構築について語り合しましょう。

対象： eラーニング教材の開発や共有に興味のある教職員、学生。日本医学教育学会会員に限りません。MoodleならびにXerteの経験の有無は問いません。インターネットにアクセスして教材を作成しますので、無線LANが利用可能なパソコン（ブラウザ環境：Edge は不可）を持参していただく必要があります。可能であればWi-Fi装置やテザリングが可能なスマートフォンも持参ください。（定員20名）

WS-2 : 学外臨床実習の充実に向けて

企画： 日本医学教育学会 卒前臨床教育委員会（赤木美智男 高村昭輝 平形道人ほか）

日時： 5月21日（土）13:00-17:00、22日（日）9:00-13:00

CD

概要： 大学病院で行われている医療の性格は必ずしも卒前の臨床教育に最適であるとはいえず、「地域基盤型教育」の必要性が増しています。また、分野別評価への対応としての臨床実習期間の延長と入学定員増による学生数の増加は、大学病院の指導医の負担を益々増大させています。これらのことから、臨床教育の一部を学外の施設にゆだねる必要性は今後さらに大きくなることが予測されます。本ワークショップでは、全国の大学医学部・医科大学における学外臨床実習の現状を分析するとともに、その問題点と対応策を検討することを目標とします。

対象： 臨床実習の運営・指導に関わる人

（定員24名）

WS-3 : 医学教育における教学IRの理論と実践 ～分野別認証評価とその先を見据えて

企画： 恒川幸司（MEDC） 荒井貞夫（東京医科大学） 中村真理子（東京慈恵会医科大学） 岡田聡志（千葉大学）

日時： 5月21日（土）13:00-17:00

R

概要： 本邦医学部の間で「2023年問題」と呼ばれている、世界医学教育連盟（WFME）の認証基準では、学生評価・プログラム評価・継続的改良に関する大項目が設けられています。認証評価を受審するためには、各大学がまずデータに基づいた自己点検評価を行わなければなりません。そのためには、自校が行っている教育活動について、統括的にデータを収集・分析するための方略が必要であり、各大学ではIR（Institutional Research）部門が設立されつつあります。そこで、医学部が抱える問題点を基にして、IR部門で調査すべき課題を挙げ、分野別認証評価に必要な情報とその収集・分析方法を考えます。

対象： IRを担当している、またはIRに興味のある教員・職員

（定員20名）

WS-4 : 文化的差異への対応

－語学・文化人類学の観点からネイティブ英語SPを活用した実践の可能性

企画： 芦田ルリ（東京慈恵会医科大学） 倉田 誠 林美穂子（東京医科大学） Alan Hauk（東邦大学）

日時： 5月21日（土）13:00-17:00

T/L

概要： 昨年の外国人旅行者は2千万人近くに上り、2020年にはオリンピックが開催されます。在日外国人も年々増加し多様化しています。外国人患者が益々増えてくると思われる中、様々な背景を持つ患者さんに少しでも安心して治療を受けてもらうためには、語学面からのみならず文化人類学の面からもそれぞれの違いに配慮したケアが望まれます。本ワークショップでは日常臨床現場で見られる異文化への対応ケースや文化人類学的視点から見られる文化的差異のケースから、外国人患者にどのように対応していけばよいか議論します。そして、いくつかのシチュエーションのシナリオを作り、実際に外国人模擬患者さんと実習を行います。

対象： 文化的差異への対応に関心があり、ネイティブ英語SPを活用した実践教育に興味のある教員・職員・医療者・学生

（定員15名）

WS-5 : シミュレーション Scenario（シミュレーションを導入した授業案・指導案）をブラッシュアップしよう！

企画： 阿部幸恵 伊藤綾子（東京医科大学） 万代康弘（岡山大学）

日時： 5月21日（土）13:00-17:00、22日（日）9:00-13:00

T/L

概要： 近年、シミュレーション教育を導入する施設や教育機関が増えています。しかし、この教育を研修や授業で実施したが、指導者間の統一が図れない、デブリーフィングがうまくいかないなどと、効果的に実施できない悩みを抱えている指導者や教員も多い。そこで、本ワークショップでは、受講者に、実際に行った、または次年度行う予定のScenarioを提供していただき、ID理論の視点からScenarioを評価して、TBL・PBLなど他の教育方法との連動も視野に入れて議論して改善点を明確にしていきます。講師らには、大人数でのシミュレーション授業の工夫、TBLやPBLとの連動、机上シミュレーションなど実際の授業や研修を紹介してもらい改善策の参考とします。

対象： 医学・看護学の基礎や卒後教育において、実際に研修や授業でシナリオ（授業案や演習計画でも）を作成しシミュレーション教育を実施した方、または、次年度実施する予定でシナリオや授業案などを作成されている方（途中で可）でシナリオを持参してブラッシュアップしたい方が対象です。一人で1つのシナリオを持参されても、数名で1つシナリオを持参するのもよいです。ただし、1つのシナリオで3人までとします。定員24名ですが、8シナリオが集まった段階で募集を締め切らせていただきます。

WS-6 : 医学教育分野別認証評価における自己評価の書き方を学ぶ

企画 : 泉 美貴 (東京医科大学) 奈良信雄 (順天堂大学) 中村真理子 (東京慈恵会医科大学)

日時 : 5月22日 (日) 9:00-13:00

M/L

概要 : 日本医学教育評価機構 (JACME) が正式に発足し、本邦の医学部・医科大学は2023年までに医学教育分野別認証評価を受けることになりました。認証評価では自己点検評価をまとめることが重要です。自己点検評価は、A) 水準に関する情報、B) 水準に対する現状分析、C) 現状への対応、D) 改善に向けた計画の4項目から構成されています。本ワークショップでは、まず医学教育分野別認証評価の最新の情報を知り、次に各項目に何をどのように記載すべきかについてワーキングを通じて演習します。

対象 : これから医学教育学分野別認証を受審される大学の教職員

(定員30名)

WS-7 : 性的マイノリティ患者に適切な医療を提供するために医療系学生が学ぶべきことを考える

企画 : 青木昭子 (東京医科大学) 阿部恵子 松尾かずな (名古屋大学)

日時 : 5月22日 (日) 9:00-13:00

CD

概要 : 日本では性的マイノリティは人口の5~7%とされています。近年、性的マイノリティの対応に真剣に取り組む企業が増えており、2015年には渋谷区で「同性パートナーシップ条例」が成立しました。私たちは性的マイノリティを正しく理解し、適切な医療を提供しているでしょうか。本ワークショップにおいては、最初に性的マイノリティ患者の医療に関わり、支援団体の代表者でもある松尾が、現場における様々な問題点をお話しします。その後、欧米での教材を参考に、医療系学生が性的マイノリティの医療を学ぶための目標と方略を作成したいと思います。

対象 : 性的マイノリティ患者に関心のある教員、指導医、医療職、研修医、学生

(定員15名)

パネルディスカッション : 共感する能力は教育できるか？

企画 : 日本医学教育学会 倫理・プロフェッショナリズム委員会 (尾藤誠司 宮田靖志ほか)
杉原保史 (京都大学) 竹林洋一 (静岡大学) 西垣悦代 (関西医科大学)

日時 : 5月22日 (日) 9:00-13:00

T/L

概要 : 医療面接において「共感的な態度」の表出は重要な評価の要素となっています。しかしながら、医師等医療専門職が、患者や患者家族に対する共感、あるいは共感的理解を十分に実践できているかについては疑わしい現状があります。本パネルディスカッションでは、臨床心理の専門家の立場、および感情信号のインプット/アウトプットという視点から、人工知能に関する専門家の立場での講師を招いた上で、共感のメカニズムについて理解を深めます。その上で、医療専門職を目指す学生や現役の医療者が他者に対する共感の能力を後天的に獲得することはどこまで可能なのか、さらには、能力の獲得のためにどのような教育処方が有効なのかについての議論を行います。

セミナー : ICTを活用した医学教育の未来構造 -さらなる高みへ-

講師 : R. ブルーヘルマンズ (東京医科大学)

日時 : 5月21日 (土) 17:15-18:15

T/L

概要 : 日本の医学部においてICTを活用した教育の導入が加速しています。東京医科大学では、いずれもオープンソースソフトである学習管理システムのMoodle、eポートフォリオシステムのMahara、コンテンツ作成システムのXerteを2011年度より順次導入してきました。5年間の試行錯誤で一定の効果は得られていますが課題もまだ多く残されています。多くの医学部でも同様にICT活用教育の導入に大変な労力、経費および時間を費やしています。教員同士あるいは教育機関同士で教材を共有することの有用性は明白であるにも拘わらず、これまで共有化はほとんど進んでいません。本講演では、東京医科大学における取り組みを紹介し、さらに日本医学教育学会の広報・情報基盤開発委員会で目指しているeラーニング教材の共有に基づいた未来構想とその課題について考察します。



参加登録方法

事前登録制です。インターネットから直接お申し込みください。
「MEDC」で簡単検索できます。

締め切り：2016年5月8日(日)

ホームページからお申し込みできない方は、お電話（058-230-6470）にてご連絡ください。
ワークショップ運営上、各々定員を設けております。
申し込み多数の場合、ご参加いただけないこともあります。ご了承ください。

参加費： 2,000円（資料代） 学部学生無料

懇親会費： 3,000円

参加費・懇親会費は、受付時に徴収いたします。
資料代は、資料ならびに第60回セミナーとワークショップの報告が掲載されている、「新しい医学教育の流れ」の作成等に使用いたします。参加者には後日、「新しい医学教育の流れ」の冊子およびCD-ROMを送付いたします。（学部学生への送付はありません）

会場： 東京医科大学病院 教育研究棟（自主自学館）
（〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1）

